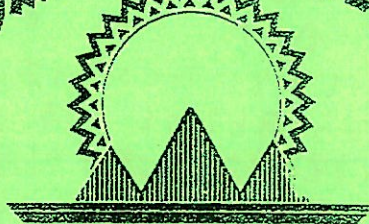


今月のことば

山陽堂だより 41

2012年12月師走

SANYODO SHOTEN



山陽堂書店

山陽堂・夏葉社
企画展

年末年始の
営業

- ・12月29日(土)
11:00~16:00
- ・12月30日(日)
~1月4日(金)
休み
- ・1月5日(土)
11:00~16:00
- ・1月7日(月)より
通常通り営業

いいお天気ですね。
あつまって、
そんなふうにはじめ。
意味や内容じゃなく、
「そうですね」、と
感じ合いたいからなんだ。
「夜は、待っている。」
糸井重里著 オリー

今年も山陽堂お世話になりました。
来年もおしくあわかしやうです。

『さよならのあとで』～今、いい人を静かに思う～

2012年12月3日(月)～21日(金) 日休み
月～金 11:00～19:00 土 11:00～17:00

トクショー 12月14日
夏葉社代表(金)
島田潤一郎氏
19時より
1,500人
Tel. 03-3401-4309
山陽堂まで。

『さよならのあとで』(ハンリー・スコットホース詩 高橋和枝絵)
この一冊の本がこの世に生まれてくるまでに、どれだけの年月、
どれだけの人の想いを重ねてきたのでしょうか。この世に生まれて
くるものすべてに平等に与えられている逃れられない「死」。
「生と死」がくり返されるなかで、人は生まれ来て、また死んでいきます。

この本を出版した夏葉社の島田潤一郎さんは、吉祥寺でひとりで出版社を
経営しています。この度の企画展の元になる本『さよならのあとで』を出版する為
出版社を立ち上げたのです。そこには大切な人の「死」がありました。

この本ができるまでの約2年半、イラストレーターの高橋和枝さんは装画を
100枚以上描き、詩の傍らに添える絵と島田さんとのあいたで、何度も何度も
やりとりして選んだそうです。 〆 〆 〆

今年は、表参道けやき並木のイルミネーションはありませんが、この度の展示は、
クリスマスを迎える時期と重なります。イエスキリストが生まれたとき、
ヘロデ王は、イエスの誕生に自分の地位が脅かされるのを怖れ、ベツレヘムの
2歳以下の子どもたちを殺してしまいます。今から30年近く前、東ドイツのドレスデン
ツインカーン宮殿の美術館で、イエスを抱いたマリアの背景におびただしい
数の乳幼児の顔が浮かび上がってくるように描かれていた「ラファエルの絵、
「シスターの聖母」と生合いました。イエスの誕生は、喜びだけでなく、
多くの哀しみと共にあったのだと気がかされました。あかまが国会に圧迫された
経験は、あの時かはじめでした。この念のこころを思い出したのは、
夏葉社島田潤一郎さんの天に召された従兄さんか。見えないけれど、「人間、かんはれ」と
後押ししてくれているのかなと思ったからでしょうか。キリトに残された言葉にもふれみでた。

『さよならのあとで』展に寄せて

君がこの世を突然去ったとき、僕がどれほど悲しかったか。どれほど
こわい思いをしたか。君は知らないでしょう。からだが、こころが、その日と境に、
すべて入れ替ったような気になって、何ともかき上手いかなくなって、
全部が全部、君が悪い人だと思ってしまうようになって。君が悪い日本と。
めっちゃくちゃに歩き回って、君に会いたい、とずっと思っていました。

僕は、日本中を歩き回る代わりにたくさんの本を読みました。そして
ある1冊の本の中で、この『さよならのあとで』という詩に出会いました。

それは愛を裏切ったある父親の手記で、彼は外国でたまたま目にしてその詩を
自らのために翻訳していたのです。最初、僕はこの詩を君の両親（僕の叔父と叔母）
に送りました。それから、自分のために、A4の用紙に印刷して、
毎日のように眺めていました。この詩をもっと綺麗な形で、もっと丈夫な紙で
残したいと思うようになって。いつの日のことだったか、覚えていません。
でも、ある日、僕の両親に、この詩を本にしたい、そのために出版社とつていい
ところをお金と貸してほしい、と言いました。それまで紙編集をしてこい
なかつたのですか、それと僕の僕にとって、人生でやりたいことは、この本をつくる
ことしか、なかつたのです。

それから、3年以上経ち、高橋和枝さんの力を得て、『さよならのあとで』が
できました。すべてのことが手探りでしたか、毎日、高橋さんの絵に
励まされ、なんとか形にすることができました。

君がいなくなつて、もうすぐ5年になります。

今でも君が恋しいです。

表参道で、君と、もう1度だけ、会いたいです。夏葉社 島田潤一郎

『さよならのあとで』の絵の糸のこ

『さよならのあとで』のTのために絵を描きはじめたのは2009年の冬でした。
夏葉社の島田さんは「手にとってくれた人にとって癒しとなる本をつくりたい」と
何度もおっしゃいました。ですか私は、「癒し」と何だろう？と混乱してしまい
筆は遅々としてすすみませんでした。

整理がつかないまま、でも何回か島田さんにお会いし、お話ししていくうちに、
まずは、『さよならのあとで』の挿画を描くというよりは、島田さんに手紙を
書くような気持ちで書いてみようと思うようになりました。

それから2011年の11月まで、すいふんとTくさんのラフスケッチを島田さん
にお送りしました。その中からいくつかを「本」というかたろでは日の目を
見なかつたものですが、今回、山陽堂さんの御厚意で、こちらに飾らせて
いたTくことになりました。高橋和枝

『さよならのあとで』詩ヘンリー・スコット 絵高橋和枝 1365円

夏葉社 島田さんと絵を描いてくれた高橋さんの言葉